



# おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2021年4月)



せんりひじり幼稚園  
副園長 安達かえで

## 「幸せになる力」を育てよう

入園、進級おめでとうございます。

環境の変化は、大人も子どもも少し不安なものです。「何をするのかわからない」「困ったら誰が助けてくれるかわからない」など思うかもしれません。人は、見通しができれば安心します。ですから、最初は一日一日、小さな「大丈夫!」を重ね、安心を積み重ねていきます。そのために、先生たちは「魔法のような言葉」をかけていきます。子どもたちの不安げな姿も肯定的にとらえ、温かく見守っています。ここは安心できる場所だよ、何でも言ってね、泣いてもいいよ、甘えてもいいよの気持ちを、様々な言葉にのせて届けている先生たち。今はとにかく子どもたちの心の安心安定を目指します。豊かな感性や深い学びは、安心安定できる空間でなければ育ちませんから。

私たちは、子どもたちが見せる様々な姿を、肯定的に捉えることが非常に大切なことだと思っています。

いつも園内研修に来てくださる大妻女子大学の岡健先生は、次のように話されています。

「子どもの育ちは前にしか進みません。子どもが以前にはできていた何かができなくなったように見えるのであれば、それはそれまでにあった力が失われたり弱まったからではなく、子どもの中でなにかが育ったからと考えるべきです。そして今できない何かをできるようにしてほしいと思うのであれば、どういう力が身につけばそれができるようになるかを考えるべきです。」

私たちは子どもの育ちを「足し算」で見えていくために、子どもを肯定的に見取るための「リフレーミング」という研修をしてきました。子どものできないことを課題としてみるのではなく、やろうとしていることと育とうとしている力をたくさん見つけてあげること、今育っている力をさらに伸ばしたり、次に育てたい力を伸ばしやすい環境づくりや関わりをすることができます。

子どもが幼稚園から家に帰ってきたら、いろいろ聞きたくなりますよね。「何をして遊んだの?」「どんな歌をうたったの?」と。「お花のジュース屋さんしたよ」「うさぎさん見に行ったよ」...など、子どもが話し始めたら、興味深く耳を傾け、対話をしてあげてくださいね。決して否定的な質問はしないように気を付けてください。例えば「先生に叱られなかった?」とか「誰かとケンカしなかった?」など。否定的なことを聞かれると、子どもも否定的な視点に変換して伝えようとしてしまうからね。

先日、室内環境の先生「キッズ岩城」の代表の岩城先生が、研修に来てくださいました。子どもの主体性の話で盛り上がりましたが、子どもが遊びたくなる環境、夢中になる環境を作ることの大切さも教えていただきました。その時に、幼稚園の遊びや生活の中で様々な目に見えない力が育っていく話をしましたが、それはつまり「幸せになる力」と言えると岩城さんに言われて、その通りだと思いました。

私たち園のスタッフは、子どもたちの「幸せになる力」が園生活の中で育つように、様々なかかわり方で支えていきます。どうか、保護者の皆様も、子どもたちを肯定的に見守り、育ちを楽しみにしていただけたらと思います。

コロナ感染防止に細心の注意を払いつつ、そんな中でも豊かに過ごすことができるように努めています。どうぞ、よろしく願います。

ご意見や感想は [kaede@hijiri.ed.jp](mailto:kaede@hijiri.ed.jp) までどうぞ